◆ふるさとの話題◆

鬼門除の神と獅子舞

下総の自領、堺の館を逃れ上総の国栗山川の畔に館を構えた平の将門は、聞くともなく家来達の話声に耳を傾けていた。今日は半路とない荒海の潮騒も遠く、家来達の話も手にとるように聞えて来るのだ。

「下総から此の地に来ても一歳余りになるのう」

「道理、道理、殿が下総の堺に似ている、上堺の堺と呼ぼうとおおせられたのが確かに花の盛りの頃でおじゃったが最早花の時期もすぎて青葉が、それ、あのように青々と萌え出しておるわ」

「したが、野山のただずまいといい、里人の気質といい、ほんとうに似ているのう、堺の町に……」

「いや、より好い位じゃ、川伝いに上って行くと半路で玉のような水が溢れる泉があり、更に逆上れば戦いに欠くことの出来ない勝栗の実が豊かに実り、兵糧にはもって来いじゃ、そればかりか、二里程奥の田で穫れる米のうまさは、都人でさい、舌をぬらす程のものじゃというぞ」

「お強く、智恵もあり、その上吾等にはおやさしい殿はきっと神のお加護があり、此の地を再起の場所とされて、次の風雲を呼びおこし、武運の強さをお示しになる日も近かろうぞ」

「それにつけても憎いは、卑恐極まる伯父君良兼殿じゃ、殿の成人の後は渡してくれ、と仰せられた前殿の言葉に違反するばかりか、再三ならず京の帝に讒訴し、あまつさえ殿の無罪が判明されると今度はその帰りを待ち伏せての急襲じゃ、それも殿の御脚の悪い御様子を察してのことと聞く……」

家来の話しは何時果てるともなかったが、これ以上聞いているには余りにも自分がみじめに感じられて来た将門はわざと足音を立てて家来達の溜りに近ずいた。それとなく目と目でうなずき合って話を止めた家来達は、心から仰ぐように将門に向ってひざまずいた。

「かまうな、かまうな、ゆるりとせい……どうじゃ、今朝程部落の長が許しを受けに参った、鬼門除の舞を見物せぬか……供をせい」

想いつきではあったが、事実鬼門除の舞を見たい気にもなっていた、それは、今朝早く郎党の某を通じて、「毎年六月十五日に風神鎮めと鬼門除を兼ねて近くの祠に舞を奉納するしきたりになっているので今年もやりたいから許してもらいたい」と申出て来たのである。勿論心よく許可を与えてあった。祠は館の傍にある松林に囲まれた空地にあり舞はその前で行われている筈であった……

……将門の一行が近ずいた頃は舞は一段とたけなわで里人も祭りの演に酔いしれていたが、さすが長老達は将門等に気がつき、新らしい党将の為一番高い広い場所を開けていんぎんに一行を招いた、舞は三匹の獅子に紛した三人の童子が無心に踊り狂っていた。

或時は突如として猛々しく舞い、或る時は静かに歩み、それは丁度将門が、父を失い肉親の伯父に誘殺されようとして辛うじて逃れ、更に讒訴に遭い乍ら武蔵の守高麗王に助けられて知遇を受け、再び伯父の追撃を逃れて現在の地に活を求めている過去の身の上を物語るように想われた……三匹の獅子は、二匹が相携いて一匹の獅子を疎んじて何時か姿を消えさせ、更に二匹の獅子は互いに争いを続けて遂に最後の一匹が勝ち残る、というものであった、見物の者達は「やんや、やんや」と拍し称えていたが、将門は何か決するように立ち上った、

「うん、力じゃ、力じゃ、人の力は頼みにならぬ、今の舞は神の教えじゃ、神の教えと己の力だけが信りじゃい」と臍を噛むような声でつぶやいた、そして、「誰か居らぬか、近う近う」と呼び寄せ「何事？」と覗う家来達に、

「此の祠から栗山川沿に一線をひけ、そして、その線上に水の祈り、栗の祈り、そして米の祈りの祠を祭れ、これを我が鬼門除けの神とあがめ、今後此の地を神の栄、上の堺と呼び我が家再興の地としようぞ……」と矢つぎ早に命令を下した。

伯父国香、良兼、良正等の妨げにより是といった官職も持ち得なかった将門が自分の力だけを頼む以外の術を知らず、止むに止まれぬ立場に追いつめられて下野、上野の国守を攻め、折から現れた伎女の宣託を信じ、自から「天位は将門に授かる」と呼豪し「平新皇」と称えて王宮造営の悪夢を見るに到ったのは此の獅子舞を見てから四年目、弟高将等のむほんによって栗山畔の館を伯父良兼に奪われて此の地をはなれて僅か一年半のことであったという、破乱の生涯を送った将門が少しでも平和な日を送ったのは栗山河畔の二年半程の間だけで鬼門除の神威が現れていたものであるという。

そして、将門が祀ったという鬼門除の神社は屋形の四所神社、北清水の清水神社、栗山の鹿島神社、本町の四社神社の四社がそれで、神栄の里は、何時か上総の堺に戻って上堺として地名に残っていると今でも里人は信じているという。

（本稿は、四所神社周辺の古老に語伝えている伝説であり実録とは異ることが多いと思う、尚取材については屋形荒場、早川倉吉氏の労を煩わせたことを感謝いたします）

◎四五年前館後という附近から白骨が現れて話題を巻きおこしたが、将門の館に関係の有無は知る由もない。

＜写真は尾形四所神社＞

「これを困っている人に」とゼニスパイプ労組員の美挙

横芝駅裏にあるゼニスパイプ横芝工場労組の諸君は、毎月の俸給の中から十円未満の端数を拠出し「これを困っている人の為に」と九月一五〇〇円、十月に一二三〇円を役場厚生課に委託してきた、出来そうで仲々出来ないのが社会の善行である。厚生課では社会福祉協議会に相談して〃法定外援護資金〃として此の篤志を受入れることとなった。

「一回だけの思いつきでなく二回にわたる篤志は本当に頭が下がります〃たすけ合い〃精心からも此うした動きが一職域に出て来たことは有難いことだと思います」と関係者は感激の言葉を述べている。

【註】　法定外援護資金とは生活保護対象にはなれず、しかし事実は困っている人の緊急援護或いは行路病者の援護等に町村の社会福祉協議会が支出する資金である。

したがってゼニスパイプ労組の諸君が委託された金額も此の後何十人何百人の人を助けることにもなる金の一部に繰入れられた訳である。

今年最後の住民検診は十二月中に実施します

インフルエンザ予防注射は十一月！

衛生係では一般住民の与論に応えて再度住民検診（レントゲン間接撮影及び血圧測定等）を実施し、極めて好評のうちに一まず終了させたのですが、最近〃どうしても都合がつかなかったから〃〃あの時は丁度体の具合が悪くて行けなかった〃等の理由で「何とかいま一度だけ実施して欲しい」との要望が強いので、来る十二月十日、十一日の両日を予定して本年度最後の検診を行うことにしました、くどいようですが名実共最後の機会ですから前もって受診の計画を樹てて漏れなく全員検診を受けられるようおしらせを兼ねてお誘いいたします。

又毎年昌闕を極めるインフルエンザの予防注射は十一月中に実施する予定ですからこの点もあらかじめ御承知おき下さるようおしらせをいたします。

住民検診にしても、予防注射にしても、改めて回らん板或いは有線放送を通じて御案内は致す筈ですから良く気をつけ見落しのないように御注意をお願いいたします。

若い者にやまけておれんでのう

老人クラブ小学校に雑巾とハタキを寄付

屋形南川岸老人クラブのおぢいさん、おばあちゃん方は何とか老後を世の中の為にと張切っているが、先般ＰＴＡの人達が「学校では雑巾やハタキが不足している」という話を聞くと「何だ、その位のもの、わしらに任せときな、面到を見てあげるよ」と早速雑巾とハタキの製造？　にとりかかり、雑巾百五十枚、ハタキ百本を持って区長さん宅を訪れて「可愛いい孫達に使わせて下さい」と申出た、面喰った区長さんは、驚くやら、嬉しいやら、夢中で学校に届けたというが、

「いや、全く頭が下がりました、とかく年寄りじみて、若い者に任せろ、という人が多い中で全部の人が参加しての奉仕だというんですからね、私達も何事も他山の石と思わず、人の為につくすことの尊さがしみじみと分りました、何でも教育委員会で表彰してくれるとか言って喜んでいましたが、区でも此の人生の功労者をもっと大切にしよう、と話し合っているところです」南川岸の区長、佐瀬哲司さんは眼鏡を曇らせながら語ってくれた。

それかあらぬか南川岸には立派な〃老人の家〃が建設されている。

＜写真は

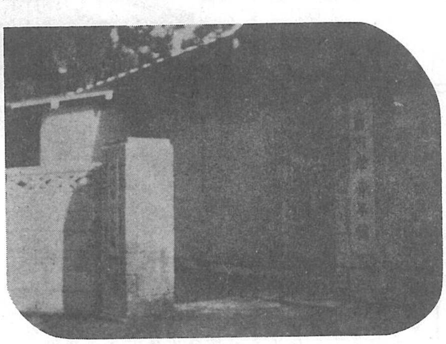
老人の家「わしも雑きん　つくつたよ」と語る　おばあさん＞

屋形南川岸に青年館

東町には児童館

青少年健全育成にはそのセンターが必要である、横芝町では中心から比較的離れた南川岸には総工費一一五万円の近代的建築による青年館が誕生した、県補助五〇万円、地元指定寄付五〇万円、町費一五万円で、坪数二五坪、ブロック壁を囲らした、一見雛びた鉱泉旅館といった感じの瀟洒な建物で、十畳二間八畳一間、襖による仕切りは自由に取外して大広間に転用出来る仕組みになっている。十月十一日に落成式を挙げたばかりであるが、その利用は、青年は勿論、児童の天神講から母の会、老人クラブ、婦人会の集り、ＰＴＡ等と連日の様に続き農繁期でも老人の楽しむ姿が見受けられている。「出来て見てその必要であったことが良く分りました。追々娯楽施設も完備したいと思っています」と地元の部落役員は交々語ってくれた。

こうした、いわば閑静な地域の寄り所とは反対に、横芝の中心街東町には児童館の建設が着々と進んでいる、場所は稲荷神社附近で建坪一三〇坪余り、木造二階建、総工費七六〇万円（県補助一六〇万円、地元寄付金三〇〇万円、町費三〇〇万円）という堂々たる構想であるが、次第に遊び場を追われ、辛うじて神社の縁側等に遊び場を見つけ出している子供達にとっては本当に夢呼ぶ楽しい場所となるものと地元の期待は大きい。

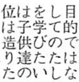


＜写真上は
いこいの家に　ふさわしいたたずまいを見せる青年館＞

＜写真下は
ビーズ刺しゅうの講習にいそしむ　役場職員＞

職場に趣味の会！

レジャーは趣味と実益を、と此の程役場の女子職員がビーズ刺しゅうを始めた、講師は町内某教習所の先生を招いて会費三〇〇円、中には材料代より現物を買った方が安くつくのではないか、と批論する外野席の声もあるが、そこはそこ「私達はもうけだけが目的ではないの、女性としてのたしなみにも手芸を学びたいの、然し将来は子供達のハンドバック位は造りたいわ」と仲々たしなみと経済を兼ねた考えは頼母しい。ともあれ近頃接待態度も好評の女子職員がより一層女らしさを増して来ることは期待して楽しみである。



寸言

〃三ちゃん農業〃は昔の夢（少しオーバーかな？）現在は〃二ちゃん（りゃんちゃん、と読むそうな）農業〃という言葉が流行している、即わち、じいちゃん、ばあちゃんの二人だけ、かあちゃんも、父ちゃんも工場通い。

子等は皆工場通いに出て果てて、翁等のみが田畑守らん

尊いお方の歌を真似た訳ではないが〃農村を荒廃に任せて何の政治ぞや〃静かに思い深く考えて見よう。

◆　◆

一つのゴミの山が出来ると後から後から捨てに来る、勿論正常のゴミ捨場ではなく、他人の土地でも平気、「捨場がないのが悪いんだ」というが捨てられる人の身にもなって見ていただけることが大切、第一終戦直後にはゴミなんてなかったんだが、

◆　◆

〃畑を荒らして困る〃〃路を歩いていたら吠えつかれた〃放飼の犬の被害による非難しきり、繋いでおいては可哀そう、というが被害を受ける人は尚可哀そう、家の人には尾を振って甘えるが他人には牙をむき出すのが畜生のアサマシサか。

◆　◆

まだ有線をカチカチやる人がいる、「緊急以外は用いないで下さい」といくらと言っても仲々分らない困ったものだ〃また番号でなく名前で呼出しをする人がいる、他の人の呼出しに差支えるので調べてあげられない場合が多いし番号で呼ぶのが電話の常識であり、局からも協力を求められている。是非御協力を！これも加入者の皆さんお互いの為。

十一月一日から十二月三十一日迄は公給領収書発行受給強調週間です料理店などで御会計のさいは必ず公給領収書を受取りましょう。

＜千葉県山武支庁＞